

<補足資料>アーティスト・作品紹介

■ ソー・ソウエン | Soh Souen [招へい期間 9/16 - 12/14]



1995 年生まれ、北九州市在住。自らのアイデンティティーが何によって成り立っているかを、身体との関わりにおいて追及。肖像写真からドットのみを抽出した絵画シリーズや、自らの身体を縁取った絵画などを制作するほか、近年では、映像作品やパフォーマンスにも表現の領域を広げる。

■ 滞在制作作品

《Bellybutton and Breathing —— お臍(へそ)と呼吸》(展示会場: Artist Cafe Fukuoka)

どうしてわたしたちは「わたし」を強固に求めたり、ある群衆の中で「わたし」を容易く放棄するのでしょうか。本インスタレーション、パフォーマンスでは、人の出生と深く関わりのある「お臍」と「呼吸」に着目し、「わたし」や「わたしたち」の性質を検討します。

《エグササイズ》Eggsercise (展示会場: 福岡アジア美術館)

生命の象徴である卵を身体のくぼみに挟み、落とさないように時を過ごすことで、わたしと世界の間にある隔たりや、暴力性について考察します。

■ 大西 康明 | Onishi Yasuaki [招へい期間 9/16 - 12/14]



1979 年生まれ、大阪府富田林市在住。空洞や余白など日常には意識されないような「間」や「境界」を多様な素材を用いて再構築し、人と自然などの関係を問う作品を制作。近年では、新しく銅箔を用いて河原全体をトレースする作品《石と柵》などを発表。

■ 滞在制作作品

《境の石 室見川》Stone on Boundary The Muromi River (展示会場: Artist Cafe Fukuoka/福岡アジア美術館) ※2 会場でシリーズ作品を展示

室見川の河原の石を銅箔で型取りしたものを空間に配置します。時間の堆積を象徴する石の形態を借り、銅箔で覆い木槌で叩いて石の形をトレースする行為から、表と裏、内と外、虚と実、時間や空間を捉えます。

■ ゴン・ジェション | [耿傑生] Keng Chieh-Sheng (台北、台湾) [招へい期間 9/16 - 12/14]



1989年生まれ、台湾、台北在住。台湾や東アジアの人々の習慣、あるいはその身体性に注目して、オブジェやインスタレーションなどを制作。近年では、木の質感を重視した木彫作品やミクストメディアの作品を発表。

■滞在制作作品 (展示会場：本庄湯／Artist Cafe Fukuoka／福岡アジア美術館) ※3 会場でシリーズ作品を展示

《水循環 ウォーターサイクル》Water Cycle

土地が埋め立てられたあと、水はどこへいくのか？私はこの問いから出発し、福岡では浴槽に浸かる行為や埋立地を、水の移動という現象と関連づけて捉えました。個人、都市、そして環境が織りなす密接な関係性を表現する上で、水の湧き出る場所、量感、そのさまざまに変化する形態は作品の重要な要素となっています。